

## 8 (現地圃場試験) 春どりレタスの現地適応性試験

### 背景と目的

市内における玉レタスの4・5月収穫作型の安定生産に向けて平成27年度から品種比較試験等を実施しました。試験結果から、ほぼ全ての供試品種の生育や結球性が基幹品種「サリナス397」より劣り、本作型に適する品種が希有であることが分かりました。その中で唯一、「エムラップ231」において基幹品種と同等の形質や収量性が認められたことから、生産者ほ場での適応性を調査し、本作型において栽培可能な品種の選択肢を増やすことにより、産地の生産安定化に寄与することを目的としました。

関係先 旭川青果物生産出荷協議会レタス部会

### 耕種概要

- ・供試品種：サリナス397（標準品種）、エムラップ231（サカタのタネ）
- ・現地生産者ほ場所在地：旭川市神居町雨紛
- ・作型：無加温ハウス栽培
- ・試験日程：

	サリナス397	エムラップ231
播種	購入苗のため不明	1月7日
鉢上げ	2月4日	2月7日
定植	2月26日	
収穫	4月17日（生産者のサリナス397収穫時期に合わせた）	

- ・栽植密度：床幅300cm，株間27cm×条間27cm，11条植え（11,317株/10a）
- ・エムラップ231の栽培株数：11条×5列=55株（ハウスの一部，反復なし）
- ・施肥量：（10aあたりの成分量）

肥料の種類	施用時期	成分量(kg/10a)	備考
堆肥，有機質肥料	前年秋	N:P:K=11:13:6	今年度肥効を期待できる成分量を算出
S055	2月20日	N:P:K=10:5:5	

### 試験結果

(1) 生育調査(収穫前の生育の様子を調査)

調査は4回実施しましたが、いずれの調査も両品種の生育は同等でした（表1）。また、結球期は両品種とも3月20日でした。

表1 生育状況の調査の各結果

調査日	3月7日		3月20日	4月3日	4月9日
	葉長(cm)	葉数(枚)	株径(cm)	球径(cm)	球径(cm)
サリナス397	10.9	7.9	28.6	10.1	12.7
エムラップ231	10.5	8.3	29.4	9.7	12.9

※株径：株を俯瞰した際の最大直径 球径：結球後の球の最大直径

## (2) 収量調査

サリナス 3 9 7 の総収量が 5,956kg/10a だったのに対し、エムラップ 2 3 1 は約 8 割の 4,990kg/10a でした。

## (3) 特性調査

エムラップ 2 3 1 は平均 1 球重がサリナス 3 9 7 より下回り、球高、長球径、短球径は同等でした (表 2)。エムラップ 2 3 1 は調査時の内部の巻きが少ない状況であったことから、収穫適期はサリナス 3 9 7 より遅いものと考えられました。

表 2 平均 1 球重, 球高, 長球径, 短球径

品種名	平均 1 球重 (g)	球高 (cm)	長球径 (cm)	短球径 (cm)
サリナス 3 9 7	434	12.7	15.4	14.3
エムラップ 2 3 1	363	12.5	15.4	13.5

## (4) 現地生産者の感想

エムラップ 2 3 1 は、外観、生育度合いがサリナス 3 9 7 に非常に近く、代替候補として有望であると考えているが、エムラップ 2 3 1 はサリナス 3 9 7 より肥大充実が遅れたため、両品種の肥大充実速度の違いを考慮する必要がある、とのことでした。

## 考察

結球期までの生育速度や外観は非常に似ていましたが、結球期後の球肥大充実期はエムラップ 2 3 1 はサリナス 3 9 7 よりも肥大充実が遅い様子が見られました。昨年度、農業センターで試験栽培をした時の球肥大充実期の気温は平年より高かったのですが、今年度は平年より低い状況であったことから、エムラップ 2 3 1 は当該時期が低温だと肥大充実が遅れる可能性が考えられ、導入する場合はこの点に注意が必要です。

このような注意点がありますが、春作型に発生しやすいタケノコ球など異常球が非常に少なく、これまで 37 品種を供試した中で最もこの作型に適しており、サリナス 3 9 7 と類似点が多いことから栽培品種の選択肢になりえる貴重な品種であると言えます。



サリナス 3 9 7



エムラップ 2 3 1